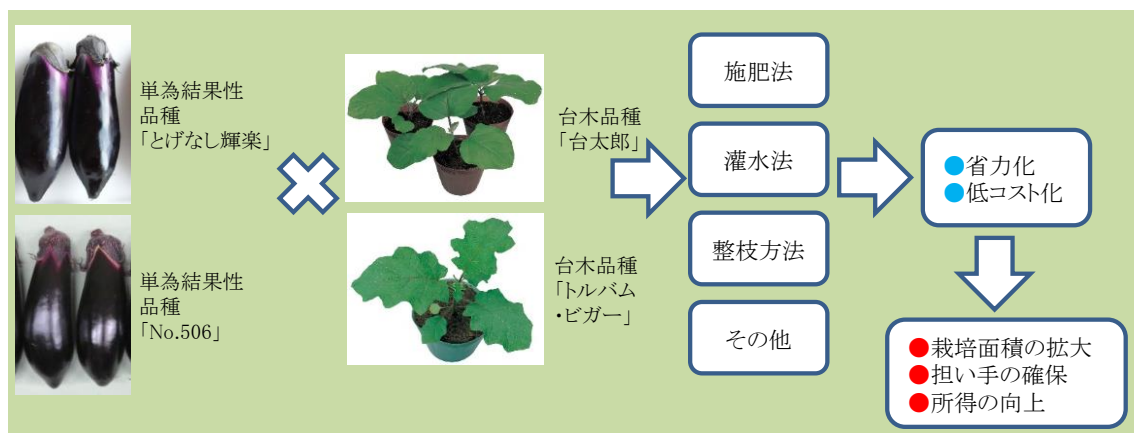


課題名：単為結果性ナス品種の特性把握と栽培技術の確立（令6～8）

内容：ナスは本県の野菜で生産額が最も多い品目で、このうち約半分を施設ナスが占めています。その中で、施設ナス栽培の年間労働時間のうち 12%に当たる 328 時間をホルモン（着果促進）処理が占めており、大きな負担となっています。そこで、近年開発されたホルモン処理をしなくても結実する単為結果性ナスの品種特性を把握し品種選定を行うとともに、有望品種の栽培技術を確立します。



[野菜・花研究室HPへ](#)

[農業研究所HPへ](#)